

JACS 論文プロポーザル賞最優秀賞受賞報告

第 9 期大学院生 菊盛 真衣
(第 7 期 OG)

◆JACS 論文プロポーザル賞とは...?

日本消費者行動研究学会が主催している研究構想コンテストにて、優秀な成績を収めることによって授与されるのが「JACS 論文プロポーザル賞」です。当コンテストは、若手研究者の研究支援を目的として開催されており、コンテスト対象者が若手研究者という特徴があります。また、完成した研究ではなく、これから行う研究の構想を発表 (propose) するという特徴もあります。今年度は本塾で開催された 11 月の日本消費者行動研究学会コンファレンスにて発表を行い、その発表の審査結果と、発表に先立って提出した論文の審査結果によって、最優秀賞 1 人と優秀賞 2 人が決定します。ただし、年によっては、受賞者が出ないこともあるため、大変厳しいコンテストでもあります。前々年度には、第 7 期大学院生の千葉貴宏氏、前年度には、第 8 期大学院生の窪田和基氏が最優秀賞を受賞しており、小野ゼミとしては、3 連覇が掛かったコンテストでもありました。今年度は、私が挑戦させていただき、最優秀賞をいただくことができました。

◆執筆論文の概要

「e クチコミ情報取得行動における製品評価メッセージの分散の影響」

ある製品に対して、良い (正の) e クチコミと悪い (負の) e クチコミが混在した賛否両論なクチコミサイトが存在することがあります。このような賛否両論のクチコミサイトは、消費者の情報取得行動にどのような影響を与えるのでしょうか? 正および負のクチコミが混在するクチコミサイトに遭遇した消費者が、当該サイトの信憑性を疑って情報探索を中断したり、逆に、自身の立場を判断するために注意深く情報探索を行おうとしたりするという現象は、既存研究において考慮に入れられてきませんでした。本プロポーザルでは、クチコミの賛否のばらつき (大 / 小) とその内容 (便益中心的 / 属性中心的) が、消費者の情報探索意図に与える影響を示す仮説を提唱しました。



慶應義塾大学三田キャンパスにて発表する著者

◆執筆後記

「JACS 論文プロポーザル賞最優秀賞は、慶應義塾大学の菊盛真衣さんです。」

「最優秀賞」という単語の後に、自分の名前が聞こえたときは、「嬉しい!!!」というより、「よかった…。」という安堵の気持ちで、胸をなでおろしました。なぜ、「よかった…。」なのかと言いますと、その言葉の後に、「小野ゼミでプロポーザル賞3連覇を達成できた…」という言葉が続くと言え、おわかりになるでしょうか。



高橋学会長より最優秀賞の賞状を受け取る著者

小野ゼミで3連覇を達成したというのは、私は凄いことだと思っています（自分の受賞を自慢したいのではなく）。過去の受賞者を眺めてみても、同じ指導教授の門下生が3年連続で受賞したということはないと思いますし、同じ大学の人が3年連続で最優秀賞を受賞したこともないです。だから、「凄い」んです。3年連続で最優秀賞を取るような研究を発表することも、そういった発表をできる人がいたことも。だからこそ、私は、3連覇が掛かると言われて大きなプレッシャーを感じました。自分1人だけの挑戦だったら話はだいぶ楽なのですが、3連覇達成できるのは、後にも先にもチャンスは今しかないんだ、千葉さんと窪田さんが頑張ってくれた分も引き継がないと申し訳ない…と思うと、非常に緊張しました。緊張しすぎて、自分の発表では、声は震えるし、上ずるし、呼吸はうまくできないし、喋るのは速いしで、あまり良い発表をできなかったような気がします。それでも、なんとか受賞できたので、「よかった…」と。

このような小野ゼミ3連覇という素晴らしい成績を収めることができたのは、これまでの発表者3人の独力であるはずもなく、他にもない小野先生のご指導の賜物であります。小野先生が論文を何度も添削してくださったおかげで、自分の研究を磨きあげることができました。妥協のないご指導ありがとうございました。また、わざわざ会場まで応援に駆けつけてくださった窪田さん、そして、大学院生の皆様、ありがとうございました。

この受賞を励みとし、今後もeクチコミ研究の発展に少しでも貢献を成すことができるよう、研究を楽しむ気持ちを忘れずに、日々精進していきたいと思います。



先生・大学院OB・大学院生との学会終了後の打上げにて（著者は先生の隣）